

武蔵御嶽神社宝物シリーズ8

長谷川雪堤画 三十六歌仙絵額

日本風俗史学会会員 齋藤 慎一
青梅市文化財保護審議会委員

武蔵御嶽神社の拝殿の長押 雪旦とともに描き、相沢伴主には、平安時代の古今集、後編の「調布玉川絵図」をも浄撰集、拾遺集などの勅撰和歌 写した長谷川雪堤(二八二一集の代表的歌人としてえらば 一八八二)。和歌の筆者は、羽村の村役人で眼医者坂本 千春と関戸(多摩市)の相沢 伴主(一七六八―一八四九) 絵は天保九(一八三二)年 の二人。成立は弘化二(一八 四二)年二月である。



紀貫之の額 貫之は東帯姿で膝に笏を立てている姿。古今集の名歌「むすぶ手の掌ににごる山の井のあかでも人に別れつるかな」の歌は坂本千春の筆。

千春は本名は小源太(小源 玉川絵図)の中の絵図之弁に、(司)で天正以来という羽村の 坂本家の観月楼からの眺望を 名主家の人。根岸典則の文政 讚えた文がある。南畝もまた 十(一八二七)年の七十歳の 賀の詞華集「花鳳集」の発起 (調布日記)。「絵図」には御 人の一人で、和歌も詠進して いる。小沢蘆庵の流れの歌人 柳園海野章典に学んで、和歌 の称を好文園千春という。ま た、伴主の創始した允中流花 道も学び、伴主とは師弟の間 柄であった。伴主も多芸で父 五流に画技をも学んでいるか ら画人として雪堤とかかわり、 また和歌の好みは千春にあっ て、あいよってこの三十六歌 仙絵額の企画が生まれたと考 える。

さらにまた伴主の父で画家 の相沢五流が文化六(一八〇 九)年に太田南畝に自筆の多 摩川流域の風景図写本を贈っ た(調布日記)が、その原本 を、伴主が天保十年から弘化 元年にかけて実踏補訂し、雪 堤に浄稿させ刊行した「調布

額面は檜の板目板で厚さ1.0 cm・縦50.8 cm・横36.5 cm。墨塗の縁は幅2.5 cmで全体の大きさは56.1 cm×41.6 cm。大中臣頼基の額面に誤って大中臣能宣を墨描きし、裏がえして頼基を描いているから、板に絵を仕上げたから縁をつけたのかもしれない。画面の下地には胡粉や金箔を置かず、板目に直に彩色。人物はほゞ22 cmほどの座像である。下辺には胡粉地に型紙で大紋高麗端を描き、厚畳(畳)に坐る姿であるが、通常、白緑などで彩色する畳表は描かない。大紋高麗端の畳は、親王、関白など高貴の所用であるが、この絵額は、纏網端の畳のはずの齋宮女御も含めて、身分の高下なくすべて大紋高麗端とする。

柿本人丸と壬生忠岑の画面には、長谷川雪堤藤原宗一の落款と長谷川という朱字長方形がある。また柿本人丸の裏面に「弘化二乙巳年二月 長谷川雪堤画」とある。

粗雑な百人一首の読み札の平安風俗の人物ぐらいたったろうから貴重な絵である。

歌仙たちの服装は、風折鳥帽子に狩衣姿が十二人。上位の公家の黒色の束帯姿九人、同じく巻纏に老懸の冠の武官で大刀や弓胡篋を帯た四位の緋色の束帯の源高光、黒い束帯の武官の源宗子、縹色の六位の束帯の武官は横向きの壬生忠岑で、束帯姿は計十二人。束帯に次ぎ、衣冠より上位の正装の布袴装束は二人。直衣は柿本人丸等三人。巻纏・老懸の冠で弓胡篋に大刀を持つた夏の縹色の直衣の在原業平もある。女性是小野小町が細長姿、伊勢・中務・三条院女蔵人左近(小大君)の三人が裳唐衣の女房の正装。几帳にかくれた齋宮女御は小桂姿か。女性は五人である。僧は素性法師と僧正遍照で僧の正装袍裳に次ぐ鈍色装束である。まさに王朝風俗絵巻とい

谷川雪堤畫之」、源公忠の裏面に「弘化二乙巳仲春 長谷川雪堤畫之」とある。一方、素性法師の裏面に「左之方霞關之旧路なる關戸の里人 歳七十八 松蔭の翁(相沢伴主)書」、猿丸大夫の裏には「右之方 玉河邊羽村人 業眼醫 坂本氏 千春しるす」と墨書して各々花押を据えている。二人で左右各十八面ずつ分担したと思われる。

伴主の筆蹟は、この額作製より一箇月後の弘化二年三月十五日の「調布玉川絵図」の序に仮名書きの筆蹟がある。千春の筆蹟は青梅の文人根岸典則の一周忌追善の詞華集「断雲編」(天保十三(一八三二)年九月)の仮名書きの序文が刊行されているから、参考対比すれば類似した二人の書風は分別可能であろう。弘化二年、千春は五十七歳ほどで、伴主の方が二十歳の長である。

御嶽へ参拝昇殿の人々の何人かは、この絵額を眺めては王朝文芸世界を映像したことであろう。

かつての寺社は単なる宗教施設でなく、庶民にとって文化伝播享受の場であった。多少の拙さはあっても、江戸後期の多摩の地域文芸交流の間関係の中で造形され、拝殿という宗教的空間で神と人々に提供された愛すべき鑑賞物としての文化財であったのがこの三十六面の三十六歌仙絵額なのである。

この絵額については多摩市から当市へ照会があって、去年九月、青梅市郷土博物館学芸員の伊藤博司氏・木下裕雄氏・北村和寛氏と共に宝物館収蔵庫を探索した時の調査による。また二十二面の額裏に配列順と思われる算用数字等を書いた紙片が貼付けられるが、一般の歌仙の左右の別や配列と一致しないところがある。